

保健医療学部



看護学科

理学療法学科

作業療法学科

“健康でありたい” 世の中の期待に応えるために

看護学科、理学療法学科、作業療法学科でプロの医療人を育成する保健医療学部。治療や予防医療、健康増進など人々の健康と生活に幅広くより密接に関わり、社会的ニーズがますます高まるなか、実践的な技術と知識、豊かな人間性を養います。

本学の保健医療学部は社会の保健医療に対する要請に応えるため、平成5年4月に開設されました。近年、保健医療への社会的ニーズは病気の治療を中心とした医療から健康生活の持続を目指した予防医療へと変化しています。このようなニーズへの対応として、病気に対するケアはもちろん、病気の予防、リハビリテーションや健康増進まで、広く人々の健康に携わる看護師・保健師、理学療法士、作業療法士の人材育成が求められています。

本学部では医療人に必要な基本的能力として、コミュニケーション、論理的思考、倫理観、自律・自立への意識を養うことを大切にしています。さらに、地域の人々の健康に対応できる専門的な知識・技術の修得、および本学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科と医学部を有する特徴を活かし、保健医療総論やチーム医療実習などの実践的なプログラムが準備されています。

今後、よりいっそう人々の健康に対する関心が高まるでしょう。さらに、そのニーズも生活スタイルの変化に応じて多様化するなか、医療人への期待はますます大きくなると考えます。本学部では実践的なプログラムと少人数制のきめ細やかな教育を重視し、北海道から海外まで広く活躍できる医療人の育成を目指しています。



保健医療学部長

丸山 知子 まるやま ともこ

「本学部では技術や知識の修得にとどまらず、医療人としての豊かな人間性を重視します。新生児から高齢者まで医療福祉を必要とする人々への理解や思いやり、自分の職業への自覚と認識なしに、医療を担うことはできません。将来の医療人を目指すみなさんにはぜひ、周りの人々や広く人間に目を向けていただき

い。その上で医療や福祉に貢献したいという希望を大切にしてください。チーム医療の基本となる医療人同士の信頼関係やお互いを認め合うことの重要性を学生のうちから実感できることも、本学で学ぶメリットのひとつです。新しい世界を開拓するチャレンジ精神と探究心を持ち、夢と希望にあふれる学生を歓迎します。」

カリキュラム

多様化する医療のニーズに応える実践能力を学修

人々の健康に対する意識が高まり、医療への要望がますます多様化しています。そのニーズに対応するためには、4年間で効果的に保健医療の基礎を学ぶことが必要です。最先端の知識と技術の学修を通して、地域に貢献できる人間性豊かな医療人を育てます。



看護学科・理学療法学科・作業療法学科を擁する保健医療学部では効果的で多様なカリキュラムを設定し、4年間という限られた時間の中で、高い倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成を目指します。医療人としての自覚を早期に養うため、1年次から三学科合同で講義・演習を行う保健医療総論などをはじめ、最先端の知識と技術の効率的な学習を進め

るための専門教育カリキュラムを組んでいます。また、これからますますニーズが高まる地域医療・チーム医療に関する講義や実習を充実させ、社会に貢献できる医療人としての専門的な知識・技術とともに多様化する課題への解決能力を身に付けます。学外医療機関等との連携を深め、効果的な教育・実習体制を整え、専門教育に必要な基礎的能力を養います。



●保健医療学部 4年間のカリキュラム

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
三学科合同カリキュラム	一般教育科目 → P.32			
	専門科目(人間発達学 I-II など)		地域密着型チーム医療実習 → P.5	3学科合同研究発表会 → P.32
	保健医療総論 I~IV → P.31			
看護学科	[対象の特性と看護活動] 看護臨床治療論、成人看護活動論、母子看護活動論、老年看護活動論、精神看護活動論 在宅看護活動論、地域看護活動論、看護教育学、看護管理学 など			
	[人間と健康] 生体科学、人間関係論、病態学 など	[健康と環境] 保健医療システム、環境保健論、疫学 など	[看護の基本] 看護学概論、看護技術論、看護倫理 など	[臨床実習] 成人看護実習、母子看護実習 老年看護実習、地域看護実習 など
	[臨床実習] 基礎看護実習		[臨床実習] 精神看護実習、地域看護実習 看護学セミナー	
理学療法学科	[人体の構造と機能及び心身の発達] 解剖学、生理学、運動学、病理学 など	[疾病と障害] 内部障害学、神経障害学、術前術後管理学、発達障害学 など	[基礎理学療法学] 理学療法管理学、理学療法研究セミナー など	
		[理学療法評価学] 理学療法診断学 など	[理学療法治療学] 義肢装具学、物理療法学、運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害理学療法学、日常生活理学療法学、集中治療理学療法学、神経筋促進治療学、スポーツ障害学 など	
	臨床実習 I	解剖学実習、生理学実習、運動学実習	[地域理学療法学] 地域理学療法学 など	総合臨床実習 I-II
		臨床実習 II	臨床実習 III	
作業療法学科	[人体の構造と機能及び心身の発達] 解剖学、生理学、運動学、病理学 など	[疾病と障害] 内部障害学、神経障害学、術前術後管理学、発達障害学 など	[基礎理学療法学] 作業療法管理学、作業療法研究セミナー など	
		[作業療法評価学] 作業療法診断学 など	[作業療法治療学] 義肢装具学、物理療法学、運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害理学療法学、日常生活理学療法学、集中治療理学療法学、神経筋促進治療学、スポーツ障害学 など	
	臨床実習 I	解剖学実習、生理学実習、運動学実習	[地域作業療法学] 地域理学療法学 など	総合臨床実習 I-III
		臨床実習 II	臨床実習 III	

三学科合同カリキュラム

保健医療総論 4年間通して3つの学科合同で学ぶ



第1学年「保健医療総論Ⅰ」

将来、保健医療人として第一線で活躍するためには今後4年間の学習が極めて大切ですが、その意欲を持続するのは必ずしも容易ではありません。そこで、この「保健医療総論Ⅰ」では、入学直後の1週間を使って、学

習への動機付けをすることを目標に「車椅子体験」「高齢者体験」「視覚障がい体験」の3つの模擬体験を行います。学生はそれぞれ体験者、介助者、観察者として関わります。体験で得られた共通内容をもとに討論を行い、対象者への援助方法を模索することになります。



第2学年「保健医療総論Ⅱ」

この科目の目的は、1) 実習を通じて保健医療福祉専門職および、その対象者と関わることでそれらの機能と特性を理解する 2) 対象者、保健医療福祉専門職者、学生および教員との関わりからチームの主体的

員としての役割を学び、今後の学習活動の方向性を明らかにする、この2つです。1つのグループは3学科から3～4名の学生で混成し、月～水曜日は実習施設を使用します。木曜日は学内で実習内容を振り返り、金曜日に報告会を開いて実習での学びを共有します。



第3学年「保健医療総論Ⅲ」

保健医療総論Ⅲは保健医療総論Ⅰ～Ⅳに共通する目的・目標を基盤とし、保健医療総論Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえた上で、その焦点を「総合的な視点と倫理性」に定めています。とくに演習を通じて保健医療に従事する職種

の倫理性や、自己の考えを明らかにすることが重要な目標です。演習では3年生全員が視聴覚教材の学習→サブグループ学習→グループ討議と段階的に学びます。



第4学年「保健医療総論Ⅳ」

保健医療総論Ⅳでは、保健医療総論Ⅰ～Ⅲや3年生までに体験・学習した内容をもとに、具体的な事例を通して保健医療福祉チームにおける看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの職種の専門性や特性、役割を学び、さ

らに医療におけるチームアプローチの大切さを理解することを目的としています。具体的には障がい者を有する対象者に対し、3学科の学生が協力して面接計画、面接、評価、支援プランの作成を行い、各職種の専門性を生かした医療チーム連携を体験します。

一般教育科目

豊かな人間性、的確な判断力、あくなき探求心を身につけるために

概要

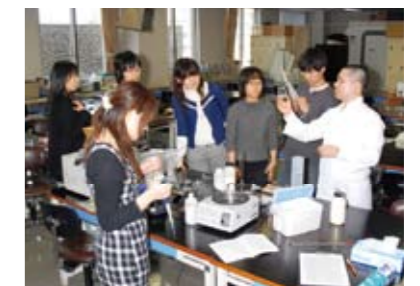
一般教育の目的は、専門科の基礎となる知識を習得するとともに、豊かな人間性を身につけ、さらには私たちを取り巻く様々な現象の仕組みやその理解の仕方を基本的に問い直すことにあります。大学生には、自ら学び考える力を養うばかりでなく、“課題を探究する能力”が強く求められています。一般教育から学ぶ価値観の多様性や論理的な思考力は、これからの人生にとって必ず貴重なものになると考えます。

講義

21世紀の保健医療人には、豊かな人間性と幅広い教養を身につけることが求められており、自然科学・社会科学・人文科学の各領域を学ぶことが必要不可欠です。一般教育科目の講義として、生物学、生命の物理学、生命の化学、生命科学、心理学概論、哲学と科学、倫理学、教育学、社会学概論、法学、文化人類学、女性学、情報科学、統計数学、生活学、表現論などが開講されています。

実習・演習

講義の他に実験・演習として、自然科学実験、心理学実験、スポーツとレクリエーション、英語Ⅰ～Ⅳ、保健医療英語、スペイン語、中国語、手話・点字などが開講されています。自然科学実験では、物理学、生物学、化学の基礎実験を通して、自然科学実験の方法、実験結果の整理・発表の方法を学習します。また心理実験では、講義で学んだ心理学に対する理解をさらに深めるとともに、心理学実験の方法を習得することができます。



3学科合同発表会

4年間の総仕上げとして

保健医療学部では、平成17年度より看護学科、作業療法学科、理学療法学科の3学科合同研究発表会を行っています。各学科の学生たちは4年

次の後期に教員の指導を受けながら研究活動をまとめ、その成果をポスターにして発表し意見交換を通して学びを深めます。



看護学科 Department of Nursing

看護とは人々の生活を健康面から支える活動

看護学科は、現在および将来の保健医療の重要な担い手として国内外で活躍できる人材の育成を目的としています。卒業時には、看護師、保健師の国家試験受験資格が得られます。



看護は、さまざまな健康観や価値観をもって生活する人々の誕生から死までの一生涯を通じて、心身の健康と生活の側面から総合的に理解し、かつ支援する専門的な保健医療活動です。

看護学科の教育課程は、人と健康および環境との関わりについて理解を深めるとともに、看護学の専門的な知識、技術、態度の修得を目的に構成されています。専門科目では看護活動の場である病院、福祉施設、保健センター等で実習を行い、看護の実際を学びます。また、他学科との合同講義や保健医療チームの体験学習を通して保健医療に対する幅広い視野と洞察力を培いながら看護学への理解を深め、発展させるように独自の教育課程を展開しています。

本学科の卒業生は、道内外での保健・医療・福祉の各施設で活躍しているほか、大学院や助産師課程への進学、国際的支援活動への参加や海外留学など、一人一人の個性にあった多様な道を切り開いています。



4年間の学習

第1学年



第1学年では一般教育科目を中心に、人間・自然・社会に関するさまざまな科目について学習し、人間観・自然観・社会観を養います。また、看護の対象である人間の身体および心理・社会面についてより深く理解す

るために生体科学や人間発達学、人間関係論などの科目を学びます。

看護学の学習では看護の基礎・基本となる知識、およびコミュニケーションや感染予防、バイタルサインの測定などの技術を修得します。

第2学年



第2学年になると、看護学を支える専門基礎分野、看護実践に関係する専門科目が増えます。前期は看護技術、ヘルスアセスメント、看護倫理の学習を通して、看護実践の科学的・倫理的な思考力を養うとともに、対

象者の安全・安楽・自立を促すための看護方法を学びます。

後期からは、母子看護学や成人看護学、地域看護学など看護の対象や場の特性と看護の活動についても学習します。これらの科目ではグループ学習が多く組み立てられており、討論しながら学び合います。

第3学年



第2学年に引き続き前期では、成人・母子・老年各期の身体・心理社会面からの理解を深め、様々な年代や健康状態にある対象者への看護を専門的に学びます。また、在宅療養者とその家族を支援するための知識・技

術を学習します。後期はこれまでの学習をもとに、成人・母子・老年・在宅看護実習に臨み、実際の看護活動を通して看護実践力を養います。

また、看護学基礎セミナーでは4年生と共同で学習し、看護学の知見に広く触れることで看護に対する学習を深めます。

第4学年



第4学年では、心の健康を支える精神看護学と地域で生活する人々を支援する地域看護学を学びます。この他、将来の指導力の基礎となる看護教育学や看護管理学、学生個々の興味関心に対応するための選択科目と

してリハビリテーション・クリティカルケア・産業看護論が入ります。

後期は精神看護と地域看護の実習を行います。精神看護実習では精神面の健康問題を抱える人への看護実践を、また地域看護実習では保健所や保健センターで小集団や地域全体を対象にした看護実践を学びます。

理学療法学科 Department of Physical Therapy

健康の増進と身体機能の向上を目指し、QOLを高める理学療法

多種多様な疾患や障がい苦しんでいる人たちの医学的リハビリテーションを担い、さらに社会の要請に応えられる人材の育成を目指しています。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格が得られます。



近年の医学の進歩は目覚ましい反面、疾病や障がいにより日常生活に困難を感じる人たちが増えています。また、高齢化社会となり、身体機能低下や疾病、障がいの慢性化・重複化が進んでいます。

理学療法士の主たる使命は、(1)健康増進や障がいの予防(2)障がいを持った方に対する身体機能の改善(3)日常生活動作を再獲得できるよう指導(4)生活の質(QOL; Quality of Life)を高め、満足できる日々を過ごしていただくことであり、リハビリテーション医学の中で中核をなす職業の1つです。

理学療法士の活躍の場は病院のみならず老人保健施設や地域リハビリテーションなどの福祉の場、保健所などの行政の場や、研究機関など多岐にわたっています。

本学科では理学療法について、基礎医学や臨床医学をはじめ、運動療法や物理療法、各種の治療手技などの専門的な知識・技術を優秀な教員が教授し、多様な疾患や障がいに対するリハビリテーションを担う人材を育成します。また、少人数教育の中で人の痛みを理解できる心優しい医療人の育成に努めています。

理学療法評価診断学実習



内部障害理学療法実習



日常生活技術学



4年間の学習

第1学年



第1学年では、心理学、医学英語、生体力学や倫理学など科学的思考の基礎や人文科学、自然科学などの一般教養のほか、人体の構造や機能について学ぶ解剖学、生理学などについても学習します。その他、リハビ

リテーションとは何か、理学療法とは何かなど、リハビリテーションの理念についても学びます。1年生の終わりには学外の病院において1週間の見学実習を行い、実際の理学療法士の仕事場面や、患者さんを取り巻く他職種との連携の様子を実際の病院で学習します。

第2学年



身体に障がいを有する患者さんを多角的に評価し、患者さんの持つ問題点を幅広くかつ多角的にとらえることで理学療法における具体的な治療内容が決定されます。第2学年では理学療法評価診断学、運動学や運

動器障害、神経障害に対する基礎的な理学療法評価、測定を学習し、検査手技の演習を行います。また、後期学期末には検査手技の正確性、妥当性、選択性などの学習を目的として、病院にて1週間の検査測定実習を患者さんに対し行います。

第3学年



第2学年で学習した基礎的な理学療法評価法をもとに、神経障害理学療法学、運動器障害理学療法学、呼吸・循環器障害理学療法学など、実際の疾患、病態を踏まえた適切な評価・治療の選択を行うことができるよう

学習します。その他、評価だけではなくそれぞれの評価に即した治療法の選択、治療手技について学びます。また後期学期末には2週間の評価実習を行います。これまで学習してきた内容を基に実際に病院で患者さんに対し評価を行います。

第4学年



臨床的な観察力や分析力を養い、臨床的実践力を身につけるために病院などの医療福祉施設において長期の臨床実習を行います。実習の後には学内にて報告会を開き、いろいろな病院や施設に実習に行った学生が

情報交換をすることによってお互いの知識を共有し、様々な年齢層における病気、障がいについての理解を深めます。その他第4学年では卒業研究を行い、研究の目的、方法、データ収集と解析、考察など論文作成の基本を学習します。

作業療法学科 Department of Occupational Therapy

人とその生活を科学し、自立を助ける作業療法

人間が行うさまざまな活動の治療手段として応用するための理論と技術を学び、障がいを持つ人々の自立した生活や社会参加を援助できる人材の育成を目指しています。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格が得られます。



世の中の急速な変化に伴い、医療のあり方も変化しています。今、医療に求められるのは病気に対する治療だけではありません。病気が回復した後も生活の質を可能な限り下げないようにする QOL (Quality of Life) を含めた生活支援医療へのニーズが高まっています。

作業療法では質の高い生活が得られるよう、さまざまな方法を用いて生活支援を行っています。心身の機能・構造的回復から実際の日常生活動作の改善、さらには家族への支援や環境整備まで幅広い分野に渡っているのです。人々の予防医療への関心も高まり、その啓発や指導も求められます。活躍する場は病院から地域社会や学校まで、ますます広がっています。

作業療法学科では社会からの要請に応えられる人材の育成を目標に、基礎知識の学習に重点を置きつつ、困難に立ち向かう姿勢を育て、多様な価値観を理解できる柔軟性を身につけることを教育の基本方針にしています。

身体障害作業療法学演習



身体障がい者に対する作業療法実施のため、各疾患の障がい像について学び、必要な評価・治療方法についての知識と技術を修得します。

精神障害作業療法学演習



精神障がいや認知症に対する作業療法実施のため、認知・精神機能や日常生活活動の評価、治療プログラムの立案・援助方法を学びます。

発達障害作業療法学演習



さまざまな発達障がい児・者への評価・治療立案を演習し、治療手技および姿勢保持具や治療玩具等を用いた具体的な援助方法を学習します。

老年期障害作業療法学演習



高齢期に多い障がいの特徴を理解しながら、老年期作業療法の実施に必要な評価・治療方法や集団作業療法について学びます。

4年間の学習

第1学年



保健医療人になるための基礎を固めます。人とは、生命とは何かを生物・心理・社会的視点から包括的に学ぶとともに、リハビリテーションや作業療法の概念とその社会的役割についても学びます。医療専門職に必要な基礎医学も前期から開講されます。

第1学年の後期には1週間の病院見学実習（臨床実習Ⅰ）が行われ、作業療法士の働く環境や求められる役割、作業療法技術について具体的なイメージをつかみます。

第2学年



病気や障がい、福祉などリハビリテーションの基礎となる知識を身につけ、医療人としての態度を養います。解剖学や生理学の実習で人体の構造や機能に関する知識を学習し、運動障害学や内部障害学、神経障害学など

の科目では疾病や障がいへの理解を深めます。また、作業療法の基礎となる知識や技術は、日常生活適応学や作業療法評価学などから学びます。後期末には1週間の地域支援活動実習（臨床実習Ⅱ）が行われ、障がいを持つ人の生活者としての理解を深めます。

第3学年



作業療法の専門的知識や技術を身につけるとともに、課題解決能力や研究的な視点を養います。各障害領域の作業療法に関する講義と演習を通して専門的な知識と技術を習得するほか、各自の関心に応じて、より専

門的な知識をゼミナール形式で学びます。実践に必要な関連知識を身につけ、後期に2週間行われる評価実習（臨床実習Ⅲ）では実際の患者さんを前にして各種の評価方法を学びます。また研究の基本を学習し、各自の興味・関心をもとに文献抄読を行いながら卒業論文の準備を開始します。

第4学年



作業療法を実践するための総合的な力を身につけます。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害など、各障害領域の中から3領域について医療機関等の実習協力施設で各6週間(合計18週間)、作業療法評価から治療に

いたる総合的な実習（総合臨床実習）を行います。この体験から知識・技術の総まとめをし、社会に出て作業療法士として働く準備を行います。また12月の発表、1月末の提出を目指し卒業論文の作成作業に取りかかります。卒業論文提出後は3月初旬の国家試験に向けて準備を行います。

在校生からのメッセージ

高校時代より勉強はハードでも達成感がまるで違う。

入学前の夢は、作業療法士として発達障がいの子供たちと関わることでした。2年の後期から作業療法に関する専門的な科目が増え、臨床で活躍する先生のお話を聞くうち、もっと現実的に作業療法士という仕事を考えるようになりました。さまざまな領域を学びながら興味がどんどん広がるのを感じています。今は脳卒中などの身体障がい者への作業療法にも関心があります。高校時代の勉強に比べるとかなりハードですが、知識が身につけていることを実感できるので達成感が違うんです。今後の学生生活を通して、自分に何ができるかをしっかり考えたいと思っています。今から臨床で働く日が待ち遠しいですね。



保健医療学部
作業療法学科 第3学年
田代 尚子

ひとりではなく仲間と一緒に理想の看護師像に近づきたい。

コミュニケーションを取りながら人の役に立てる仕事がしたいと思い、看護の道に進みました。ここまで3年間の大学生活では、勉強、部活動、友人との交流など忙しいながらも楽しい思い出ばかりです。入学当時は漠然としていた将来の夢も、演習や実習、ボランティア活動を通して、小児科領域のスペシャリストになりたいと具体化しました。少人数制なのでクラスではみんな仲がよく、先生との距離もすごく近い気がします。残りの学生生活は理想の看護師像に近づけるよう、自分ひとりじゃなく仲間たちと一緒に成長していけたらと思っています。



保健医療学部
看護学科 第4学年
桑島 拓大



保健医療学部
理学療法学科 第2学年
富田 悠平

世界の理学療法を学び地域に貢献できる社会人に。

サッカー部だった高校時代、足首のじん帯を切って入院した経験があります。そのとき、理学療法士さんに精神面でも支えられ、僕もそんな仕事がしたいと思いました。札医大で学ぶという気持ちを固めたのは、理学療法士としてトリノ五輪の医療スタッフに加わった片寄正樹先生に憧れていたからです。1クラス20人の少人数制でパソコン室や図書館、標本館など設備も整っているので勉強に集中できます。将来はアメリカやオーストラリアなど理学療法先進国へ留学してみたいですね。その後は日本で地域に貢献できる理学療法士になることが目標です。

多忙な学生生活のなかで日々、成長する自己を確認。

いい意味で多忙な毎日を過ごしながら、あっという間に大学生活1年目が終わりました。朝9時から夕方5時まで授業のある日が週に3~4日、課題やレポートもたくさん出ます。アルバイトやソフトテニス部の練習もあるので、もう少し睡眠時間がほしいと思うこともありますが、どれも今しか経験できないことばかりです。振り返ると本当に充実した1年でした。2年目の今も毎日の授業や宿題が将来の職業に直接役立つことなので、看護師と保健師、両方の資格取得を目指して真剣に取り組んでいます。忙しい分だけ日々、自分が成長できる気がします。



保健医療学部
看護学科 第2学年
長谷川 康羽

卒業生からのメッセージ



札幌医科大学附属病院
角谷明美
保健医療学部 看護学科

退院する患者さんの笑顔に
この仕事のやりがいを実感。

現在、リハビリ・麻酔・神経内科病棟で入院患者さんのサポートをしています。大学で経験した4年間の勉強は決して楽ではありませんでしたが、今こうして臨床に出てみると、学生のうちに基礎をしっかり学んでおいてよかったと実感します。逆にいえば、学生のうちしか基礎を勉強することができないのです。今年で3年目になりますが、まだ日々の仕事を確実にこなすことに精一杯です。ケアした患者さんが回復し、日常生活へと送り出すことができたときは、毎回自分のこのようにうれしく感じます。学生時代、一緒に同じ道を目指した友人は、今でも仕事の悩みや喜びを分かち合える大切な仲間です。

精神的に患者さんを支える
人間性を学生生活で養って。

骨折や関節症の一般患者さんからアスリートまで、整形疾患のリハビリ全般を担当しています。さまざまな症状の患者さん一人一人に合わせ、臨機応変に対応することが大切です。学生時代の実習や授業を通じ、常に理論立てて考えるよう指導されたことが、非常に役立っていると思います。リハビリは患者さんにとってつらいもの。精神的に支えるのも理学療法士の仕事です。話術を磨くことも実は重要なんです。学生のうちに先輩・後輩、先生との関わりから、社会性を養いたいですね。これから入学するみなさんは、4年間でよく遊び、よく学び、今しかできないことを満喫してください。



NTT東日本札幌病院
小出将宏
保健医療学部 理学療法学科

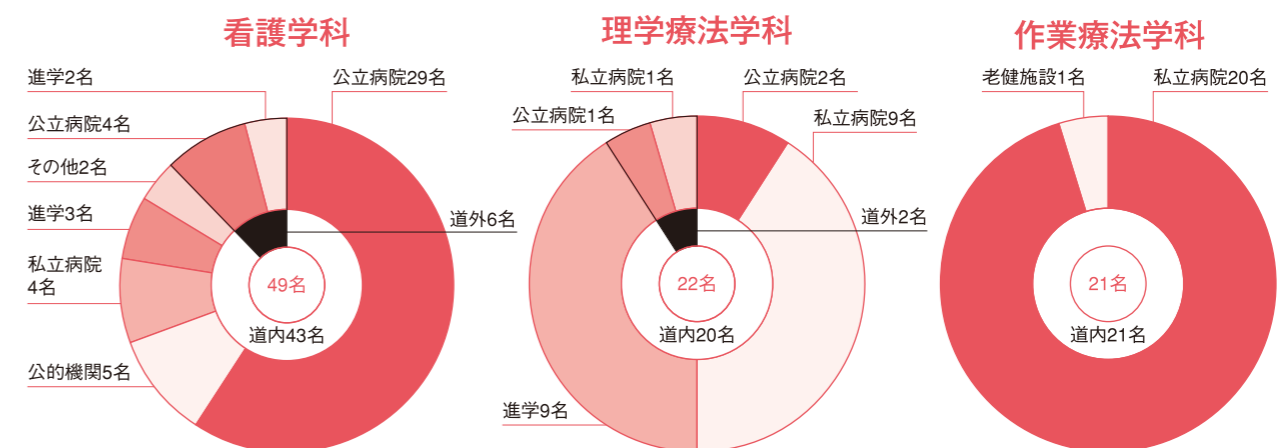


札幌医科大学附属病院
太田久晶
保健医療学部 作業療法学科

作業療法士に大切なのは
コミュニケーションする力。

医療人である母や姉の影響もあり、作業療法士の道を選びました。卒業後は大学院に進み、さらに1年間フランスへ留学。現地の病院で特別研究員として専門的にリハビリを学びました。現在は、附属病院で脳卒中の患者さんに対する作業療法を行っています。この仕事をする上で、大切なのは患者さんとのコミュニケーション。まだまだ勉強中ですが、会話からその場の雰囲気やなごませたり、患者さんの目線になって考えたりと、信頼関係を構築しながら円滑な作業療法に努めています。この仕事を目指すのであれば、高校生のうちから人と接することに慣れておくといいと思います。

保健医療学部卒業後データ 平成20年就職状況



平成20年国家試験合格率

- 看護師国家試験は48名が受験し全員が合格。合格率100% (全国平均90.3%)。
- 保健師国家試験は48名が受験し47名が合格。合格率97.9% (全国平均91.1%)。
- 理学療法士国家試験は21名が受験し全員が合格。合格率100% (全国平均86.6%)。
- 作業療法士国家試験は21名が受験し19名が合格。合格率90.5% (全国平均73.6%)。

大学院 [保健医療学研究科]

より高度な保健医療人の育成を目指して

これまで学んだ基礎的な知識と技術をベースとして、地域に密着した観点から国際的、科学的な研究に取り組みます。地域からの期待に応えられるよう、より質の高い保健医療人を育成します。



保健医療学研究科は、看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻があり、博士課程前期（修士）と博士課程後期（博士）の課程があります。

大学院では、各々の専門分野の中で学生の関心ある課題について研究を行います。その課題は専門分野の基礎理論から臨床・臨床の実践的応用まで、幅広い範囲の研究に取り組んでいます。さらに、看護学専攻博士課程前期では専門看護師コースを設置し、質の高い実践者育成のプログラムも用意しています。

プログラムも用意しています。

本研究科では、常に社会に信頼される自立・自律した保健医療人を育成するために、社会のニーズにあったプログラムの充実と専門分野の学問および活動の発展を目指し、研究・指導体制を整えています。

大学院修了後は、北海道はもとより国際的に活躍できる専門職として、また、その分野のリーダーとして期待されています。

<入学定員>

●博士課程前期
看護学専攻.....12名
理学療法学・作業療法学専攻.....12名
合計.....24名

●博士課程後期
看護学専攻.....2名
理学療法学・作業療法学専攻.....6名
合計.....8名

看護学専攻



博士課程前期

博士課程前期は看護学の研究や高度実践力が遂行できる知識・スキルを高め、幅広い視野で社会貢献と看護学の発展に寄与できる人材を育成します。専門分野の研究能力を高める修士論文コースと、日本看護系大学協議会認定の専門看護師（Clinical Nurse Specialist=CNS）コースを開設しています。

修士論文コースは、看護学の専門性向上に寄与する研究能力の発達をめざします。ライフサイクルや場の違いによる看護を探究するために、女性健康看護学、小児健康看護学、

成人健康看護学、老年健康看護学、地域看護学、精神看護学、看護教育学、看護管理学の8分野を開講しています。

専門看護師コースは高度化専門化する看護の実践能力の修得をめざし、小児看護、クリティカルケア看護、精神看護の3分野を設置しています。クリティカルケア看護は平成19年度に日本看護系大学協議会専門看護師教育課程の認定を受けています。また、専門看護師は卓越した看護の提供、看護職等へのコンサルテーション、円滑なケアのための他職種を含めたコーディネートを実践します。看護職に対する専門分野の教育、専

門知識や技術向上のための実践的な研究活動、倫理的問題や葛藤の解決などの役割を臨床現場で担っています。

博士課程前期の修業年限は2年で、入学試験は9月と1月に行っています。大学卒業生だけでなく短期大学、専修学校等の卒業生も受験資格審査を経て受験することができます。

博士課程後期

博士課程後期は看護学博士の学位を修得する修業年限3年の課程です。看護学の教育、研究者としての自立した活動、豊かな学識、高度な研究能力の開発を目指します。専門分野のさらなる知識の修得に取り組み、その成果を国際社会、地域社会に還元できる人材の育成を目的としています。

看護基盤開発学（主に基礎看護学分野）、臨床応用看護学（女性健康看護、小児健康看護、成人健康看護、老年健康看護、精神看護学）、地域生活支援看護学（主に地域看護学）の3分野を開講しています。博士課程後期の入学試験は1月に実施しています。

理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学領域



前期課程は、5つの臨床系分野（スポーツ理学療法学、身体機能代償学、神経障害理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害理学療法学）と3つの基礎系分野（運動科学、機能解剖学、身体科学）で構成されています。また後期課程は、4つの臨床系分野（運動器障害理学療法学、スポーツ理学療法学、身体機能代償学、神経発達障害理学療法学）と3つの基礎系分野（運動科学、機能解剖学、身体科学）で構成されています。

臨床系分野では、理学療法を実施する上で必要となる運動器系、神経

系ならびに呼吸器系障害の発生機序や治療方法を中心に、教育と研究を行います。基礎系分野では筋・骨格系、神経系の機能障害を基礎医学の手法を用いて解析し、理学療法理論との接点について教育・研究を行います。いずれの分野においても、科学的な知見に基づいた理学療法を実施する上で必要不可欠となる理学療法理論を教授し、的確な機能診断と評価、治療と効果判定に至る臨床応用方法について教育・研究を行うことを目標としています。

人材の育成にあたっては、日々進

歩する保健医療の中で、人間の主体性を尊重しながら、理学療法領域の基礎となる理論と高度の知識を有し、健康の追求に対して多角的な科学的根拠が提示でき、質の高い専門的技術が提供できることを基本としています。様々な医療拠点、研究拠点において、問題の解決に果敢に挑戦するリーダーとして優れた能力を発揮し、信頼される専門性を持った医療者、研究者を養成することを目指しています。

作業療法学領域



保健医療学研究科作業療法学領域では、身体・精神・感覚・認知機能など人の様々な能力に生じる障がいに対して、その障害構造の把握、適切な治療手段、社会適応に向けてのマネジメント、日常生活用具の開発、住宅改造などに関わる最新の知見を

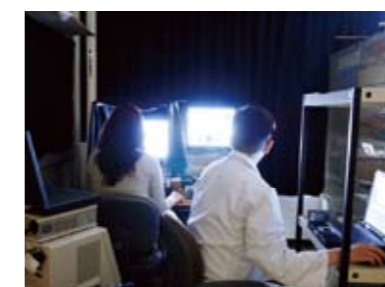
教授します。また、それぞれの研究分野（活動能力障害学、感覚統合障害学、基礎四肢機能障害学、精神障害作業療法学、地域・老年期作業療法学、神経精神機能障害学、作業科学）の視点から、作業療法学理論の治療科学としての構築と臨床的応用

に関する研究を行っています。

修了生は大学教員、養成校の教官として作業療法士教育に携わったり、病院や施設などの臨床現場で指導的役割を果たすなど、保健医療の最前線で活躍しています。



ゼミ風景（精神作業療法学分野）



反応時間課題中の視線追跡と脳血流（感覚統合障害学分野）



ピアノ演奏中の動作解析（基礎四肢機能障害学分野）